

人の顔が見える街

平成19年1月18日

原告 小林みのり

1 はじめに

私は原告の一人、小林みのりです。生まれ育ったのは兵庫県姫路市で、2000年の春に大学進学にともなって上京しました。3年半前に京王井の頭線の東松原に引っ越して以来この街に住み、現在は神保町の出版社に勤めています。

2 下北沢との関わり

私が下北沢に来るようになったのは5年ほど前です。大学のゼミの先生がこの街に住んでおり、毎週1回の補足ゼミをやっていたので来るようになりました。ゼミが終わった後は、先生も含めて10人くらいでぞろぞろと夜のシモキタにくりだし、モンゴル料理屋、パキスタン人のやっているカレー屋、韓国料理屋などに行きました。終電の時間までいろいろと話をして過ごし、そろそろ帰らないと店を出ると、駅前には漫画読みのパフォーマーやギター弾きがいて、まだまだ普通に人が歩いており、こんなにおもしろい街があるんだと驚きました。

大学4年の夏に、とうとう下北沢の近く（東松原）に引っ越してきました。それからは昼間もシモキタに来るようになり、演劇を観たり、古着屋さんや雑貨屋さんをはしごしたりしてどんどん街に惹かれていきました。

そして大学卒業後、就職して一年目の夏に、友人がもらってきたビラで道路計画のことを知りました。その時はそんな大規模な道路なんてイメージできず、とにかくもう少し詳しく知りたいと思って「セイブ・ザ・下北沢」に顔を出すようになりました。その後もシモキタのタウン雑誌『ミスアティコ』や『歩く楽しさのある街 シモキタらしさの発見』などの制作にも関わってきました。

そうした活動を通して大学時代とはまた違った下北沢の顔を知り、またミュージシャンや美容師、ライターや独立して仕事をしている人、NPOや市民運動を

している人など、本当にさまざまな物の考え方をする人たちと話す機会があり、人間のおもしろさを感じています。

3 計画の影響を受けるのはシモキタ駅前だけじゃない

今回の道路計画は2年半ほど前に知ったのですが、最近になってすごく驚いたことがあります。これまでは、行政が発表した下北沢駅周辺に限られた計画図しか見ていなかったのですが、数ヶ月前にもっと広い範囲の地図があることが分かったので見てみると、なんとそれは東松原にある羽根木公園まで繋がってきていることが分かりました。

私の住んでいる東松原は、井の頭線で下北沢から2駅隣ですが、下北沢駅—新代田駅—東松原駅は、お互いのホームが見えるほど近い距離にあります。また下北沢駅の西口から家までは徒歩20分もないので歩いて帰ることもよくあり、下北沢と東松原は一繋がりになっているという感覚です。

東松原の街は、こぢんまりとした商店街があるので日常で必要なものは何でも揃いますし、商店街を抜けるとすぐに「羽根木公園」と「梅ヶ丘図書館」もあり、とても環境が良い「暮らしの街」です。この辺りでは天気の良い週末には、ローラースケートやフラフープで遊ぶ子どもや、キャッチボールをする親子によく出会います。そんな落ち着いた生活のある東松原にまで交通量の多い道路を通すなんて、絶対に止めてほしいです（写真資料1）。

さらにこういった計画の全貌は、東松原（あるいは新代田）の住人にはまったく知らされていません。下北沢の道路工事がもし進んでしまえば、こちらに伸びてくる道路をストップさせることは必然的にできなくなります。そのことが知らされていないのは本当に問題だと思います。

4 個人経営のお店が多い下北沢

どこに住む人もそれぞれに個性をもっていると思いますが、下北沢ではそれを

感じる機会が多いように思います。その理由の一つに、シモキタには個人経営のお店が多く、店ごとに特徴があってそこを運営している人の顔が見えるということがあるように思います（写真資料2）。

私の気に入りのお店の一つに、女の人が二人で運営している古着屋さんがあるのですが、いつもレイアウトなどにさりげない工夫が感じられ、同じ服やアクセサリでも違った顔を見せていて、古着屋さんなのに行くたびに新鮮な気持ちになります。また別の場所にある喫茶店も、10人ほどしか入れない小さなお店ですが、いつもテーブルには小さな生花が飾ってあり、置かれている読み物なども少しずつ入れ替わりがあり、場が生きているという感じが伝わってきます。

こういったお店でいごこちの良さを感じるのはお店の人のこだわりを感じるからなのですが、それはお客に見せるためのこだわりではなく、お店の人自身のなかに軸があって「これ」と思うものを提示しているという所に良さがあります。そういう場にふれると、一個の人間の工夫や生活の豊かさを感じます。

それが、補助54号線ができると法的に高い建物（17階レベル）を建てても良くなり、そういった高層ビルのテナント料は高いので、そうなる個人店舗では太刀打ちできずに大型資本の店ばかりになる可能性が高いと聞いています。このままでは下北沢の街は、本当に破壊されてしまいます。

5 裁判所の方へ

今の計画は、あまりにこの街とそこで生きている人に対する配慮がなさすぎるのを感じます。行政の説明会に出てみると、まったく住民の意見を聞かずに上手くごまかしているのが私にも分かり、いわゆる「お役所仕事」というのを25年間生きてきてはじめて目の当たりにした時は、本当にショックでした。

こういう形でしか行政が機能していないということは問題だと思います。それを変える可能性を、裁判所の方に託します。なにとぞ、よろしくお願いいたします。以上



1. 晴れた日の羽根木公園。
子供からお年寄りまでがこの公園を憩いの場としている。
54号線はこの公園のすぐ脇をかすめる。



2. 1953年から続く、ジャズ喫茶マサコ。
店内には個性的な空間がひろがっている。